

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2024年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「バーチャル空間を活用した特別支援教育
に特化した教員職能開発」

研究開発期間： 2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

研究開発責任者	氏名	能智 正博
	所属機関	東京大学大学院教育学研究科（教育学部）
	部署	臨床心理学コース
	役職	教授

研究開発成果等の概要

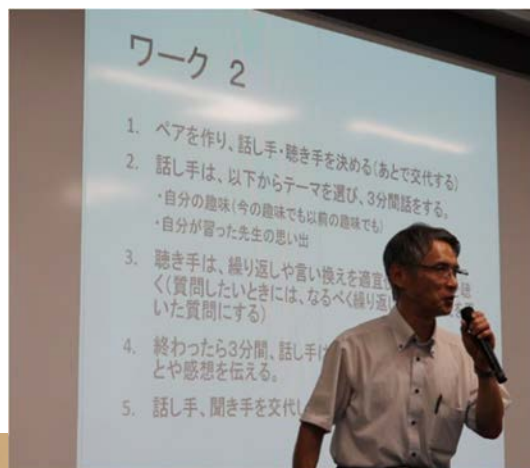
【2024 年度の実施内容】 「オンラインの前にオフライン」の徹底で計画以上に進捗している。

個別の研究開発テーマ	達成度
研究開発テーマ全体	「オンラインの前にオフライン」を合い言葉に、きめ細やかに対応しているため、エリア・校種によって偏りが見られるものの、おおむね順調に推移している。
個別テーマ1 「教員職能開発における学校・地域実装のためのフィールドワーク」	すべて遅滞なく計画通り100%進捗している。
個別テーマ2 「定量的・定性的データ分析に基づく特別支援教育スキル取得を可能とする教員職能開発要因の検討」	設定目標通り順調に進捗している。
個別テーマ3 「社会実装を見据えたインパクトファンディング研究」	設定目標通り順調に進捗している。

- ・ 北近畿での展開において、2024 年度は2 自治体からスタート予定だったが、教員間の口コミで広がり参加自治体が増加した。そのため、計画以上に進捗している。都府内で参加している学校数（義務教育・高校含め）は全部で44 校、教育機関は2 機関。参加している北近畿関連自治体は6 自治体。
- ・ 何らかの形で参加されている先生方の数は、小学校籍は281 名、中学校籍は149 名、高校は66 名、その他（校種に属さない教諭）は13 名で、計509 名。
- ・ 進捗が良かった原因は、「オンラインの前のオフライン」の徹底。ともすれば「一見さんお断り」の

警戒感があったが、能智正博教授や角南なおみ准教授らが進んでオフラインの活動を行ったことで、警戒感が和らぎ活動に結びついた。（＝写真左横）

・ 現在稼働中のオンラインサービスは「オンラインカウンセリング（対面・音声）」、「チャットを用いたテキストカウンセリング」、「Slack を用いたオンラインコミュニティプラットフォーム」（＝写真右下）の3 つ。「能智先生や角南先生と もっと話してみたい」というニーズと結びつきながら稼働中である。



柳川範之東大教授、松下佳代京大教授をお招きし
インパクト投資シンポジウム開催(12 月 7 日)



RT 兩丹日日新聞
Ryoutan Nichinichi Shinbun

協定書を持つ勝野研究科長と大橋市長（左から）ら

素地をつくり、教育の質の低下を止めたい」と意欲を示した。影山吉則教育長は「専門家の力で現場の教員に寄り添う取り組みが必要だ」としている。

連携協定は3月下旬に締結する予定だ。

(足利直哉)